JGA 全国通訳案内士研修テキスト【3】関西(広島・中部)

エリア別案内マニュアル　改訂 2024 年 1 月

目　次

１．実習にあたって ……1

２．大阪 ……4

３．京都 ……12

４．奈良 ……40

５．姫路城 ……52

６．広島・宮島 ……54

７．中部（金沢・高山・名古屋・伊勢、および周辺エリア） ……67

この冊子は、一般社団法人日本観光通訳協会（JGA）の全国通訳案内士新人研修会をはじめとする研修のテキストとして使用しています。

本テキストは 2024 年 1 月 15 日現在のデータ・事情に基づいて編集しています。施設の環境や各種サービス、規則等の運用ルール、その他の諸事情は、刻々と変わっていきます。常に下見や確認をし、最新の情報を得るよう心がけてください。なお、本テキストに記載した施設・サービスの中には、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的流行による観光客の激減や国際航空便の減便の影響、また、感染拡大防止措置の観点から一時的に休業・閉鎖したり、サービスを縮小・変更・休止したりしていたものがあります。2023 年にはインバウンドを含む観光が急速に回復しましたが、施設・サービスの再開状況はさまざまです。人手不足によりサービスが縮小されたままのケースもあります。利用する前に必ずその時点での状況を確認してください。なお、本文中では関連する状況・事情を「コロナ禍」と短縮して表記しています。

©2024 年 一般社団法人日本観光通訳協会　許可のない複製・転載は一切禁じます

【金閣寺（鹿苑寺）】 ☎075-461-0013

正式名称は鹿苑寺。舎利殿「金閣」が有名なため一般に金閣寺と呼ばれる。銀閣（慈照寺）同様、相国寺（臨済宗）の塔頭寺院の一つ。

1397 年、将軍職を退いた足利義満の壮大な山荘（北山殿）が建てられた。義満は金閣で座禅をし、金閣に連なる天鏡閣（現存しない）で盛大な茶会を開いたとされる。義満の死後、遺言により禅寺となる。境内は、当初今の 10 倍ほど広く、多くの建物を有していた。1950 年まで創建当初の建物として唯一金閣（舎利殿）があったが、寺内僧の放火により仏像などとともに焼失した。1955 年再建。1987 年金箔を貼り替え。本尊は聖観音。鏡湖池に映る金閣も美しい。三島由紀夫「金閣寺」は 1950 年の放火事件を題材とした小説で、海外でも広く翻訳紹介されている。

2020 年 9～12 月、18 年ぶりに舎利殿の屋根を 10 万枚のサワラ板で葺き替え、鳳凰などの金箔の補修も行われた。

<u>拝観要領</u>：

・拝観は屋外（庭）のみで、建物内には入らない。方丈・大書院は普段は非公開。特別拝観の際は、別途拝観料が必要で、庭園とは別の入口から入る。
・拝観の入口と出口が異なり、庭園内は一方通行となる。
・団体の場合、見どころの案内後に解散し、各自でバスに戻ってもらうことも多い。駐車場が広く、バス台数も多いため、バスが待機するレーン番号を案内しておくと良い。
・駐車場から拝観受付まで徒歩 5 分ほどかかる。途中に境内図の絵看板有り。入口と出口が異なるため、駐車場から出て少し先、右手に出口（石段の上）が見える場所で、それを案内しておく。戻り道で駐車場を通りすぎてしまうお客様も多い（市バス停留所や他の駐車場に向かう人の流れにつられてしまう）。
・拝観券はご守護札となっている（説明すると喜ばれる。漢字圏でないお客様には、どちらが上かも示す）。
・個人（29 名以下）、団体（30 名以上）で入口への列と、拝観券の取り扱いが異なる。
　個人：購入した拝観券（お札）を各自に配布の上、個人側の列に並び庭園入口へ進む。入口受付で各自、拝観券を提示し、パンフレット（日・英・中・韓併記）を受け取る。
　団体：左端の団体専用窓口で購入。団体拝観券、御札引換券、領収書の 3 枚綴りとなったものを受け取る。団体側の列から進み、係員に団体拝観券と御札引換券を手渡す。この際、人数確認にガイドが立ち会うことになっており、係員が数え終わるまでお客様には隅の空いた所で待っていてもらい、確認が済むとガイドに御札引換券が手渡される。御札引換券は入口左側の建物の受付窓口に提出し、人数分のご守護札とパンフレットを受け取る（先にお客様への説明案内をした後に受け取り、バスなどで配布してもよい）。※御札の引換所は金閣横の建物から 2023 年に変更
・2020 年 3 月より入園部分の通路が変更となった。これまで行き止まりになっていた側から入園し、すぐに北山を借景に金閣と鏡湖池を正面から眺める写真スポット。その後は金閣を正面に右方向への一方通行の流れとなった（人の流れが交錯しないようになった）。
・上記の場所が人気の写真スポットで、写真の順番待ちとなることも多い。集合写真は原則不可だが、小グループ（特に修学旅行）の写真撮影が続く場合もある。大人数に対して説明をできるスポットもこの場所のみだが、混雑と興奮で難しいこともある。集合時間など必要な案内はなるべくバスの中でしておく。
・ここで写真を撮影、説明した後、解散し、各自で散策してもらってもよい。解散前に順路と他の見どころ（陸舟の松、夕佳亭（茶室）など）、売店（出口手前、駐車場内）、トイレの場所などを案内しておく。

【広島】

人口およそ 120 万人の広島市は、中国・四国地方最大の都市であり、経済の中心でもある。人類史上最初の原子爆弾による被爆体験を原点に、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を訴える「平和記念都市」として、毎年 8 月 6 日に市長が「平和宣言」を世界に向け発表している。

・名産・名物：牡蠣、レモン、お好み焼き、もみじ饅頭、しゃもじ、熊野筆（熊野町）

・その他キーワード：瀬戸内工業地帯、牡蠣養殖、広島カープ、マツダ

【広島平和記念公園】

原爆死没者の慰霊と世界恒久平和を祈念するため、1949 年公布の「広島平和記念都市建設法」に基づき、爆心地周辺を整備して開設された公園。1950 年着工、1955 年完成。設計は丹下健三。原爆ドームを起点に平和大通りと直交する軸線上に慰霊碑、資料館を配置しており、景観をさまたげないようピロティ構造とした資料館本館がゲートのようになっている。被爆当時は市中心部の繁華街であった。

旧太田川（本川）が元安川と分岐する三角州北端と、元安川を挟んだ原爆ドーム周辺からなる。広さ 122,100 ㎡。相生橋から平和大通りの間、ほぼ南北に 1km 弱の間に、原爆ドーム、原爆の子の像、原爆供養塔、平和の灯、原爆死没者慰霊碑、被爆したアオギリ、平和記念資料館をはじめ多くの慰霊碑・祈念碑がある。

資料館の所要時間には個人差があるが 1～2 時間程度、公園全体で最低 1 時間半～2 時間程度は必要。公園内は徒歩移動となるため、利用交通機関と目的に合わせて動線を考える。

貸切バス：

公園内の駐車場は資料館前にある平和記念公園観光バス駐車場のみ（マイクロバス以上の大型バスに限る）。無料。概ね 2 時間を超える長時間の利用はできない。待機は公園内本川沿いの一時待機スペース（10 台程）または周辺の駐車場（広島城駐車場など）となる。公園を南北に通りぬける形で動きたい場合、北側の原爆ドーム近くで降車し、資料館前で乗車するのが一般的だが、原爆ドーム付近での降車は路上となり、状況によっては難しい。相生橋から本川沿いの待機スペースに向かう道上での降車となることもある。ドライバーと相談のこと。原爆ドーム見学後、相生橋または元安橋を渡って公園中心部へ向かう（爆心地を経由して公園内に入ることもある）。

宮島との移動に世界遺産航路を利用する場合、乗り場は元安橋近く。

公共交通機関：

原爆ドーム横に、広電の「原爆ドーム前」電停。資料館に近い電停は「袋町」。ひろしま観光ループバス「原爆ドーム前」「平和公園前（広島平和記念資料館前）」。

原爆ドーム

広島県物産陳列館（後に広島県産業奨励館と改称）として 1915 年開館。チェコ出身の建築家ヤン・レッツェル Jan Letzel の設計で、広島名所のひとつに数えられたヨーロッパ風建築だった。レンガと鉄筋コンクリート造りで、地上 3 階・地下 1 階、中央階段室は 5 階相当の高さがあり銅板葺のドーム屋根が載っていた。

原爆投下当時は、行政機関などの事務所として使用されていた。爆心地から北西に約 160mに位置し、大破・全焼したが、外壁の一部は倒壊を免れ、ドーム部分の鉄枠とともに残った。周囲の建物のほとんどが爆風で倒壊したのに対し、爆発がほぼ真上で起き、爆風が垂直方向に働いたためと考えられている。

【高山】

飛騨山脈西側の山間に位置する。中心部は標高 573m の盆地で、冬は寒さが厳しい。古代より奈良・京都で建築に携わった「飛騨の匠」たちが持ち帰った上方の文化と、江戸幕府直轄領になって以降の江戸の文化の影響を合わせもつと言われる。直轄領となり、武士の少ない町人の町となったのも高山の特色の一つ。

金沢から高速道で約 2 時間、名古屋から特急「ひだ」で 2 時間半（大阪・京都直通便も 1 日 1 往復）。京都へも直行ならバスで 4 時間程度、安房トンネル経由で松本とも 2 時間半程度でつながり、さまざまなツアーコースに組み入れられる。なお、名古屋～高山間には 2022 年 7 月より、国交省日本鉄道大賞を受賞したハイブリッド方式の新型車両 HC85 系が運行開始した。

高山市は人口 8 万 3 千人（2023 年 12 月）。訪日客がまだ少なかった 1986 年に国際観光都市を宣言し、積極的な誘致活動を行ってきた。多言語化やバリアフリーにも早くから取り組み、ATM、Wi-Fi などの受け入れ環境整備にも積極的。徒歩で回れる規模の古い町並み、朝市、周辺の里山などが訪日客に人気となり、2019 年の外国人宿泊者は 61 万人。台湾をはじめアジアからが 56%を占めるが、ヨーロッパ 23%、北米 7%。イスラエルからのツアーにも人気で 1 万 2 千人が訪れている。個人旅行者に加え、近年は団体ツアーが急増しており、観光シーズンには混雑する。高山市公式観光サイト、案内所やホテルで無料配布されている「飛騨高山ぶらり散策マップ」は、タイ語、ヘブライ語を含む 11 言語がある。

「飛騨の小京都」と呼ばれる中心部は徒歩での観光となる。中心部に近いバス駐車場は神明駐車場、高山別院駐車場、屋台会館駐車場のみのため、見どころをどう組み合わせるか、観光順序とバスの乗降場所を考える必要がある。古い町並みに近い神明駐車場は繁忙期には満車で入れないこともある。

一位一刀彫り、透き漆で木目を生かした春慶塗など伝統工芸品も多い。飛騨地方の郷土人形「さるぼぼ」は町中で見られる。また、飛騨の匠の伝統を現代に継承するモダンな家具の店やショールームもある。食では飛騨牛や朴葉みそが名物。高山ラーメンも人気。

高山祭

高山祭は、4 月 14 日・15 日の日枝神社例祭（春の山王祭）と 10 月 9 日・10 日の櫻山八幡宮の例祭（秋の八幡祭）の総称。屋台と呼ばれる豪華な山車の曳き揃え、神輿の巡幸などが行われる。祭り期間中は交通規制が行われ、駐車場の利用も通常と異なるので注意。祭り以外の時に屋台を保管する屋台蔵が市内各所で見られる。

「古い町並み」

商人町として発達した上町から下町にかけての三筋の町並み。国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されている。出格子の町家、老舗商店、酒ばやし（杉玉）の下がる造り酒屋などが建ち並ぶ。土産物や民芸品、手工芸品、茶道具や骨董などを扱う店も多い。飲食店や名物の飛騨牛の串焼きや飛騨牛握り鮨、飛騨牛コロッケ、みたらしだんご、五平餅、などを売る屋台も増えた。

朝市（宮川朝市、陣屋前朝市）

古くから続く朝市。鍛冶橋から弥生橋までの宮川沿いで開かれる宮川朝市と、高山陣屋前の広場で開かれる陣屋前朝市がある。近在の農家など地元の人が季節の果物・野菜などの農産物、花、自家製の味噌や漬物、餅、手工芸品などを売る屋台が並ぶ。荒天時を除き原則毎日開かれるが、店舗数は季節により増減する。4～11 月は 07:00～、冬季は 08:00～正午まで。宮川朝市は通り沿いの商店もあり、より人出が多いが、正午から一般車両が通行するため、11 時過ぎには片付け始める店が